

令和4年3月25日
山梨県民信用組合

第23回経営諮問会議の概要について

当組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者から構成される「経営諮問会議（アドバイザーボード）」を設置しております。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第23回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

なお、次回会議は、令和3年度決算状況を踏まえて、本年7月頃に開催する予定にしております。

記

1. 日 時

令和4年1月21日(金) 15:00～16:45

2. 場 所

山梨県民信用組合 本店

3. 出席者

加藤 隆博	公認会計士
手塚 伸	公益財団法人やまなし産業支援機構理事長
中村 己喜雄	山梨県商工会連合会会長
波木井 昇	山梨県立大学名誉教授
深澤 嘉彦	元金融機関役員

＜五十音順、敬称略＞

(山梨県民信用組合出席者)

南 邦男	理事長
井垣 繁人	専務理事
望月 明雄	専務理事
雨宮 政仁	常勤理事
守屋 稔	常勤監事

4. 南理事長挨拶要旨

今年の経済も、基本的には回復基調を辿っていくと思うが、ここ2・3年に及んだコロナ禍で変わった人の流れ、行動や生活習慣などは、そう簡単には戻ることはないと考えている。宿泊・飲食・観光関連など、一部の業種は依然、厳しい状況下にあるが、今後、業務改革・事業再生など経営の抜本的改革に迫られてくる可能性もある。

一方、素材価格や製品価格の上昇は足元では深刻化しており、お客様の声を聴くと、これに

加え人手不足、品不足といった問題が押し掛かっており、将来的に利益を圧迫しかねない状況にある。

こうした中、私どもとしては、お客様一人ひとりにしっかりと寄り添いながら、信用組合らしさを全面的に発揮し、きめ細かな金融サービスを提供していきたいと考えている。

おかげ様で、昨年までの3年間取り組んできた「経営改革プラン」が滞りなく終了し、不良債権を抜本的に処理したことなどから、筋肉質でスリムな経営体質を構築することができたと評価している。さらにお客様にしっかりと寄り添い、そして喜ばれる取り組みを行うことで、結果的に得られる収益を地道に積み上げながら、経営基盤を強化していくビジネスモデルを目指していきたいと考えている。

5. 当組合からの説明

当組合より、以下の内容について説明いたしました。

- ・令和3年9月期仮決算概況
- ・「経営強化計画」の取組状況
- ・第5次「経営強化計画の概要」について
- ・前回提言にかかる取組状況

6. 意見交換要旨

・出席者の皆様からいただいたご意見ご提言等

- 本年よりコロナ関連融資の返済が始まるが、依然、業況は厳しく金融機関として最大限の配慮・支援をお願いしたい。
- 事業者と一緒に経営を模索する伴走型支援により、企業の経営向上に資することが必要である。
- コロナ禍により、様々な変更・変化を余儀なくされたと推察するが、コンプライアンス的な問題が発生しないよう、なお一層の対応面での強化を望みたい。
- 人の問題は大切であり、今後の組合を支えていくような企業人に育つよう、研修や成功体験の共有など、人材育成に資する施策をお願いしたい。
- 組織活性化に向けた取組みを強化されたい。
- 中長期の視点からの取り組む大切な項目は、具体的な取組状況を定期的に管理して、事業改善につなげることは非常に重要である。
- 後継問題が顕在化していない経営者に対しても、重要性に気付いていただき課題を共有することが必要である。
- 後継者育成の取り組みを組織的に行うことが大切である。
- 過度に不動産担保・信用保証協会保証に依存しない融資の推進に、今以上に積極的に取り組んで頂きたい。

以 上